

高川の稱がある。

**ハツカシヨウガツ** 二十日正月 藩政の時、正月二十日を二十日正月といひ、元旦以來調理した魚菜を集めて之を食し盡くし、その器物を藏めた。之を骨正月とも乞食正月ともいふのは、残物を食ふの義である。

**ハツカシヨマイ** ハツ所米・藩政の時金澤米市場に於いて建米とするものをいうた。寛政十一年二月二日米方に『高岡・放生津・氷見・岩瀬・滑川・魚津米、メ六ヶ所に而商仕來候處、此度泊り米・横山米合ハツ所米ニ而此以後商仕候様被仰渡候事。』とある。

**ハツカホンゴウ** 八箇本郷 ↓ホンゴウ本郷(鳳至)。

**ハツキテダイ** 場付手代 ↓テダイ 手代。

**ハツキマル** 發機丸 加賀藩の汽船。西洋千八百五十八年打立。原名シチー・オブ・バンゴ。鐵製長さ二十七間幅四間。馬力七十五。噸數二百五十。文久二年横濱に於いて購入、船印は白地に紺の劍梅鉢を用ひた。慶應二年その機關を上海で改造して錫懷丸と名づけた。

**ハツケイキブン** 芟懇紀聞 二卷。大聖寺藩内諸村の名所・舊蹟・神社・佛閣等に關する記録である。享和三年三月の序文があるから凡そその頃のものと思はれる。著者は塚谷澤右衛門で、野尻後藤太が補修した。

**ハツコウヌノ** 八講布 加賀藩では古く進物などに用ひた。名義は、宮中などで法華八講を修する時、多くこの布を布施としたからであるといふ。元祿の書言字考節用に『八講布、加賀所出物』とあるが、加賀は加賀藩内を誤つたもので、童子手習用の加越能銘記に

も『彌波郡西中村・東中村・七社村・江波村・荒谷村・伊勢領村・夏住村・大龜村・春日吉江村・六十部村・矢部村・以上十一所に阿也。』とある。

**ハツコウマツリ** 苗裔祭 鹿島郡上村の能登比古神社と能登部下村の能登比咩神社とは兄妹の神体で、一宮氣多大神の苗裔であるといひ、舊十月十九日から廿一日まで行つた祭儀をばつこう祭といふた。ばつこうははつこの語で、後裔の義であるといふ。

**ハツコカンノキ** 八古關の記 一冊。金澤の俳人李下の稿本。小松の子臈の居八古關で、李下と兩吟で催した歌仙等を載せてある。

**ハツサカ** 八坂 金澤の町名。古へ寶幢寺坂の下なる諸寺院のある所は荒地で、幾條も樵路があつたから、八坂の名が起つたものであらうといふ。今は寶幢寺坂の名が廢れて、それを八坂と稱してゐる。

**ハツサカ** 初坂 江沼郡二屋の出村である。芟懇紀聞に、この村で飴を煮て賣つたが、前田利常から免許を得たもので、それを初坂飴といふとある。

**ハツサク** 八朔 藩政の時八月朔日をいうた。武家では朔望恒例の登城があり、既に冷涼の季であるが、まだ帷子を着ねばならなかつた。民間では田實の成熟を祈る日であるが、特別の行事はなかつた。この遺風は今も往々に存し、當日業務を休む所がある。

**ハツシャ** 八社 白山記に『國之八社者、白山、菅生、府南氣比氣多白山三社也、能田粟、加茂安宅、神村小河、佐那武宮殿、八幡乃美』とある。加賀の大社を數へたものであるが、そのうち能田は熊田、粟は粟生の誤寫であらう。

**ハツスイ** 八水 大聖寺の俳人。麥水の門から出た。新鹿粟に垂菊洞と號し、新亭に竹隱主人又は晋八水といひ、三樂宴には梨守庵と稱する。新亭は天明八年八水が師の爲に集めた追悼句集であり、三樂宴は寛政二年自己の還曆に際して刊行したものである。

**ハツセテラ** 初瀬寺 鹿島郡小田中にあつた。能登誌に『五町許奥の山に彼尊像を安置せし觀音堂あり。むかしは初瀬寺といふ寺ありしに、今は寺なし。當國順禮十番目の札所なり。』とある。

**ハツソウバ** 初相場 藩政の時金澤の米市場では、正月四日に新年最初の取引を行ひ、それを初相場といふた。

**ハツタ** 八田 石川郡中村郷に屬する部落。  
**ハツタ** 八田 河北郡井上庄に屬する部落。鵜尾記に、八田は濁の端といふ意であらうと記する。

**ハツタ** 八田 鹿島郡八田郷に屬する部落。  
**ハツタアラヤ** 八田新屋 石川郡中村郷に屬する部落。  
**ハツタガタ** 八田濁 河北濁の一名。湖畔河北郡八田村の百姓が多く漁撈に従ふを以て、八田濁とも稱せられた。

**ハツタゴウ** 八田郷 鹿島郡に屬し、藩政時代では、八田・國下・千野の三ヶ村を含んで居た。↓ヤタゴウ 八田郷。  
**ハツタシヨウ** 八田庄 ↓ヤタシヨウ 八田庄。

**ハツタナカ** 八田中 石川郡中村郷に屬する部落。  
**ハツタヨシノブ** 八田吉信 通稱三助。長逆龍の家臣。慶長五年八月能美郡淺井殿の戦

に、丹羽長重の士西脇左門の爲討取られた。  
**ハツチヨウガハ** 八丁川 能美郡宮竹用水の分流で、上流では長野川といひ、野田・長野田を過ぎて八丁川といはれ、平面附近で梯川に合する。

**ハツトウホウ** 鉢頭峰 石川郡吉野十景の一つ。吉野の東方で、太白山に並んでゐる。  
**ハツトリイツモ** 服部出雲 土佐の人。前田利長に仕へ、後に村瀬平右衛門と號し、千石を賜はり、馬廻組頭を勤めた。

**ハツトリゲンコウ** 服部元好 後に關氏に改めた。金澤卯辰八幡町に住した市醫で、狂歌を能くし、尺八の吹奏にも巧みであつた。元好が俳人北枝と風交のあつたことは、その狂歌集たる軒端集に見えるから、元祿・寶永の頃を盛時としたのであらう。

**ハツトリサゲンタ** 服部左源太 父將監は尾張の人。左源太は慶長十九年前田利長に召出され、五百石を受け、大坂再役に五月七日眞田丸にて鎗を合はせ、敵と組んで戦死した。子孫藩に世襲する。  
**ハツトリジヨウザイン** 服部常在院 初

め佐久間盛政に仕へたが、後前田利長に召出された。其の子を澤庄兵衛といひ、大坂陣に討死し、其の子五右衛門の時服部氏に復した。子孫藩に世襲する。  
**ハツトリジンジャ** 服部神社 ↓ハトリジンジャ 服部神社

**ハツトリタロエモン** 服部太郎右衛門 初名數馬。山崎閑齋の臣。祿二百石。父は忠左衛門。太郎右衛門慶長十九年父の後を受け、大坂兩役に従ひ、後陣には岡山口で交槍し、又城中で敵首一つを得、銀子二枚・帷子二を